ISCC PLUS & SAF Conference Sustainability Certification in Japan

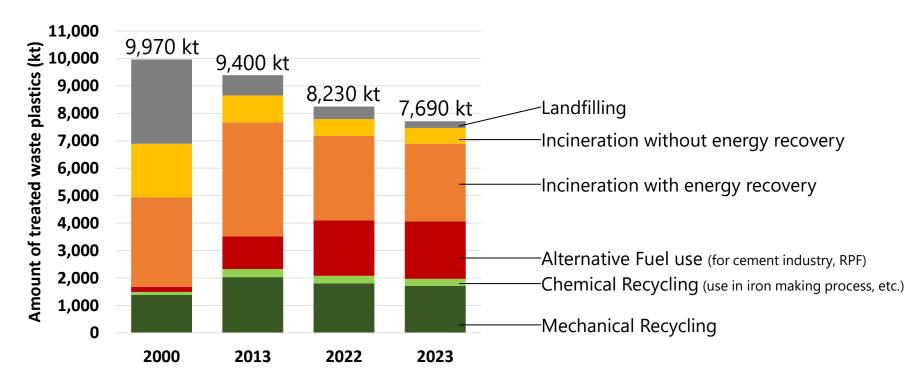
# Japan's policy to promote bio/circular-attributed Plastics

21 January 2025

Hiroyuki UEDA (植田 洋行)
Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd. Japan (MURC)
(三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)



# Waste plastics treatment in Japan

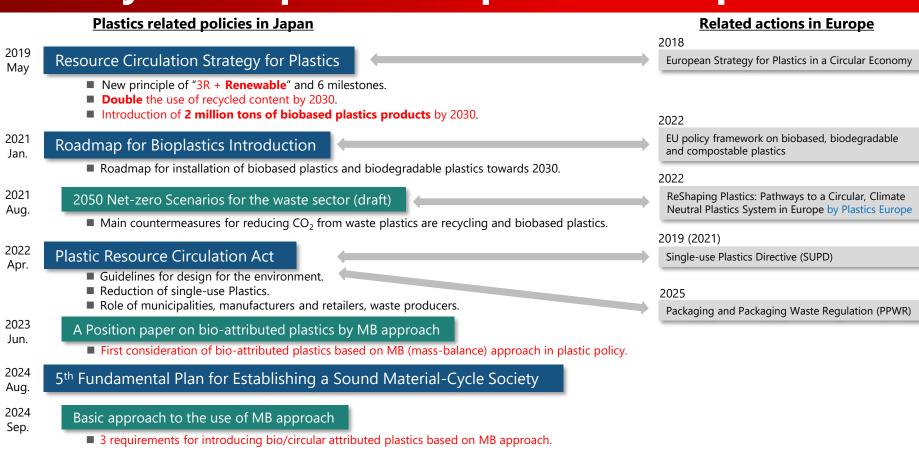


### Amount of waste plastics by treatment methods in 2000, 2013, 2022, 2023

Data source: Plastic waste management institute (2024), (https://www.pwmi.or.jp/pdf/panf2.pdf), drawn by MURC

Mitsubishi UFJ Research and Consulting Japan

# Policy development for plastics in Japan



National policies

# Policy target for plastic recycling and biobased plastics

令和元年5月31日



### プラスチック資源循環戦略(概要)

◆廃プラスチック有効利用率の低さ、海洋プラスチック等による環境汚染が世界的課題

▼焼ノノ人デック有効利用率の低さ、海洋ノノ人デック寺による県境乃栄が世外的味趣

◆我が国は国内で適正処理・3Rを率先し、国際<u>貢献も実施</u>。一方、世界で2番目の1人当たりの容器包装廃棄量、<u>アジア冬日その</u>輸入規制等の課題

#### 基本原則: 「3R+Renewable」 【マイルストーン】 **<リデュース>** ①2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制 ▶ プラスチック資源の分かりやすく効果的な分別回収・リサイクル <リユース・リサイクル> ▶漁具等の陸域回収徹底 ②2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに リサイクル ▶ 連携協働と全体最適化による費用最小化・資源有効利用率の最大化 ▶ アジア禁輸措置を受けた国内資源循環体制の構築 ③2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル ▶イノベーション促進型の公正・最適なリサイクルシステム ④2035年までに使用済プラスチックを100%リユース・リサイ クル等により、有効利用 ▶ 利用ポテンシャル向上(技術革新・インフラ整備支援) ▶需要喚起策(政府率先調達(グリーン購入)、利用インセンティブ措置等) <再牛利用・バイオマスプラスチック> 再生材 ▶循環利用のための化学物質含有情報の取扱い バイオプラ 5)2030年までに再生利用を<mark>倍増</mark> ▶ 可燃ごみ指定袋などへのバイオマスプラスチック使用 ▶ バイオプラ導入ロードマップ・静脈システム管理との一体導入 ⑥2030年までにバイオマスプラスチックを約200万トン導入 (海洋プラスチックゼロエミッション) を目指した プラスチックごみの流出による海洋汚染が牛じないこと 海洋プラス ▶ポイ捨て・不法投棄撲滅・適正処理 ▶マイクロプラスチック流出抑制対策(2020年までにスクラブ製品のマイクロビーズ削減敵底等) チック対策 ▶ 海岸漂着物等の回収処理 ▶代替イノベーションの推進 ▶海洋ごみ実態把握(モニタリング手法の高度化) ▶ 途 ト国における実効性のある対策支援(我が国のソフト・ハードインフラ、技術等をオーダーメイドパッケージ輸出で国際協力・ビジネス展開) ▶ 地球規模のモニタリング・研究ネットワークの構築(海洋プラスチック分布、生態影響等の研究、モニタリング手法の標準化等) ▶資源循環関連産業の振興 ▶ 社会システム確立 (ソフト・ハードのリサイクルインフラ整備・サプライチェーン構築) ▶技術開発(再生可能資源によるプラ代替、革新的リサイクル技術、消費者のライフスタイルのイノベーション) ▶調査研究(マイクロプラスチックの使用実態、影響、流出状況、流出抑制対策) ▶情報基盤(ESG投資、エシカル消費) ▶ 連携協働(各主体が一つの旗印の下取組を進める「プラスチック・スマート」の展開) ▶海外展開基盤

- ◆アジア太平洋地域をはじめ世界全体の資源・環境問題の解決のみならず、経済成長や雇用創出 ⇒ 持続可能な発展に貢献
- |◆国民各界各層との連携協働を通じて、マイルストーンの達成を目指すことで、必要な投資やイノベーション(技術・消費者のライフスタイル)を促進

出典:環境省ホームページ(https://www.env.go.jp/content/900513721.pdf)を一部加工

#### 【プラスチック資源循環戦略p1】

回避可能なプラスチックの使用は合理化した上で、必要不可欠な使用については、より持続可能性が高まることを前提に再生可能性の観点から再生素材や再生可能資源(紙、バイオマスプラスチック等)に適切に切り替え、徹底したリサイクルによる再生利用、それが難しい場合には熱回収によるエネルギー利用を図ることとしている。

### 【プラスチック資源循環戦略p6】

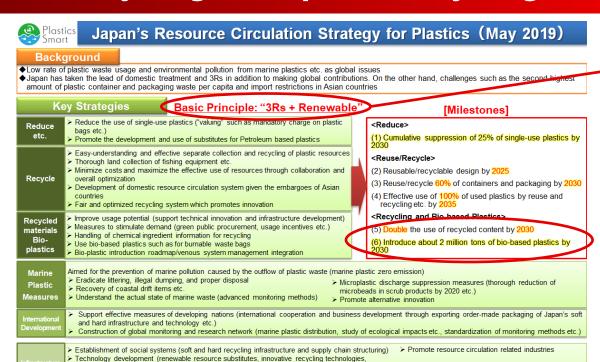
戦略では、プラスチック再生素材市場の拡大、バイオプラスチックの実用性向上と化石燃料由来プラスチックとの代替促進を図るため、それらの利用ポテンシャルを高めるとともに、総合的な需要喚起策等を講じることとしている。

### 【約200万トンのバイオマスプラスチック】

バイオマスプラスチック製品中のバイオマス割合は平均で3~4割と想定される※。

※中央環境審議会循環型社会部会(第38回), 資料1 廃棄物・資源循環分野に おける2050年温室効果ガス排出実質ゼロに向けた中長期シナリオ(案), p25

# Policy target for plastic recycling and biobased plastics



"Renewable" means replacing fossil plastics with renewable (paper or biobased plastics) materials that meets sustainability criteria.

Assumption of biobased contents are 30-40% in 2 million tons of biobased plastic products.

◆ Not only solve worldwide resource and environmental issues, including the Asia-Pacific Region, but also realise economic growth and employment creation ⇒ Contribute to sustainable development

◆ Promote necessary investment and innovation (in technology and consumer lifestyle) by aiming to achieve milestones through collaboration with all the citizens

Source: MOE website (https://www.env.go.jp/content/900513721.pdf), unofficial translation

Study and research (impact of microplastics, discharge conditions, discharge suppression measures)

Collaboration (develop "Plastics Smart" to bring efforts under one flag)

consumer lifestyle innovation)

Mitsubishi UFJ Research and Consulting Japan

Information infrastructure (ESG investment, ethical

Infrastructure for overseas expansion

# Policy target for plastic recycling and biobased plastics

On 27 December 2024, the draft "Plan for Global Warming Countermeasures" (hereinafter referred to as "the 3<sup>rd</sup> Plan"), which outlines how to reduce GHG emissions in all GHG-emitting sectors in Japan and achieve net-zero emissions by 2050, was published on the MOE website\* for public comment (until 27 January 2025).

\* MOE website: https://www.env.go.jp/press/press 04182.html 地球温暖化対策計画 地球温暖化対策計画 地球温暖化対策計画 (案) 令和3年10月22日 May 2016 October 2021 (under public comment) 1st plan 2<sup>nd</sup> plan 3rd plan **Target** By 2030 26% (new) 46% (updated) 46% By 2035 60% (new) By 2040 73% (new) By 2050 80% (new) **Net-zero (updated)** Net-zero

Transition of Japan's GHG reduction targets on the Plan for Global Warming Countermeasures

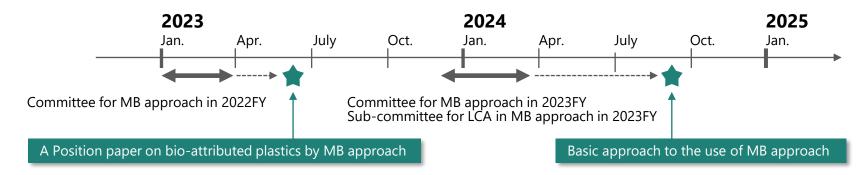
### **GHG** reduction countermeasures for plastics in the 3<sup>rd</sup> Plan

| 番号 7   | 担当府省庁   | 環境省   | ]  |
|--|---|---|--|
| 部門 非エネルキ<br>二酸化炭素  |   | 廃棄物焼却量の削減   | Title of the countermeasure  |
| 技番号 7-1<br>廃プラスチックのリサイクルの促進及びパイオマスプラスチック類の普及<br>対策・施策の内容 |   | クルの促進及びパイオマスプラスチック類の普及  | Promotion of recycling of used plastics and introduction of biobased plastics  |
| 国の施策   | ・廃棄物処理法に基づく<br>・優別リサイクルに法に法<br>・優別リサル理の<br>・原発等的なおは、<br>・市町付金勝かにおける一般<br>・グリーン等物処理事者<br>・産棄物処理事者<br>・デモステッアルリサイケル | る温室効果ガス排出抑制等指針に基づく取組  | Role of government of Japan     Consideration of measures to promote the introduction of biobased plastics to plastic products that must be incinerated after its use for reasons such as the difficulty of mechanical recycling |
| 地方公共団体が実<br>施することが期待<br>される施策例                           | 法に基づくプラスチック<br>進することにより、焼却<br>・プラスチックに係る資<br>・バイオマスプラスチッ  | 棄物について、排出を抑制し、また、容器包装リサイクル<br>製容器包装の分別収集・リサイクル等による再生利用を指<br>重を削減<br>源循環の促進等に関する法律に基づく措置の実施<br>クを域内に普及させる施策等を推進する<br>る際、バイオマスプラスチック製品を優先的に導入する | Role of local government     Promotion of measures to accelerate the introduction of biobased plastics     Prioritization of biobased plastic products in local public procurement   |
| 対策・施策を進め<br>るために必要な技<br>術・制度の名称                          | ・廃プラスチックのリサ<br>・バイオマスプラスチッ  |   |  |
| 対策・施策を進め<br>るために必要な技<br>術・制度の内容                          | ルの促進により焼却量を<br>スプラスチックを導入す<br>・消費者:商品を購入す<br>得した商品)を優先的に<br>・地方公共団体:廃プラ   | る際、バイオマスプラスチックを使用した製品(認証を取<br>選択する<br>スチック等の廃棄物について、排出を抑制し、また、再生<br>り、焼却量を削減する。バイオマスプラスチックを域内に  | products/package  • Consumer: Prioritization of purchase of biobased plastic products  |
| 対策・施策の実施<br>に関する目標                                       | 石油由来の廃プラスチッとし、2035年度に407.7万 t、2040年度に271.8万 t を見込む。これにより、2035年度に708.6万t-0 2040年度に1,091.3万tの排出削減を見込む。              |   | Local government: Promotion of measures to accelerate the introduction of biobased plastics      Monitoring indicator and Targets     Monitoring indicator: Incinerated fossil plastic waste                                     |

Source: https://www.env.go.jp/council/content/i\_05/000276910.pdf

• Future targets: 4,047 kt (by 2035) and 2,718 kt (by 2040)

## History of consideration of MB-approach for plastics in Japan



#### 令和4年度マスバランス方式に関する研究会

環境省では、マスバランス方式に係る課題の整理等を行うため、令和5年2月~3月にかけてマスバランス方式に関する研究会を開催しました。

#### 開催趣旨

マスパランス方式とは、特性の異なる原料が混合される場合に、ある特性を持つ原料の投入量に応じて生産する製品の一部にその特性を割り当てる手法であり、プラスチック製品を含む様々な分野の製品にその考え方が適用されつつある。同方式を導入することによりパイオマスや再生原料の活用促進が期待される一方、同方式の導入による環境負荷低減効果等については、知見が十分に蓄積されていないのが現状である。

こうしたことから、環境省ではマスバランス方式に係る国内外の現状を整理・共有し、企業等関係者及び学識経験者へのヒアリング・意見交換を行い、課題の 整理等を行うため、「マスバランス方式に関する研究会」を設置し、マスバランス方式を用いてバイオマス由来特性を割り当てたプラスチックの考え方について整 理しました。

#### 研究会の取りまとめ等

#### 研究会の概要

マスパランス方式を用いてパイオマス由来特性を割り当てたプラスチックの考え方につい 参考資料 (マスパランス方式に関する国内外の状況等)

※参考資料の一部を修正・追加しました (2023年7月14日)。

#### 令和5年度マスバランス方式を用いたプラスチックに関する検討会

#### 開催趣旨

環境省にて開催した「令和4年度マスバランス方式に関する研究会」の取りまとめ「マスバランス方式を用いてバイオマス由来特性を割り当てたプラスチック の考え方について」においては、国におけるマスバランス方式を用いてバイオマス由来特性を割り当てたプラスチック(バイオマス割当プラスチック)の導入を 進める際の課題と今後の対応の方向性を整理しました。これを踏まえ、バイオマス割当プラスチック等の導入に向けた検討を引き続き進めるため、「令和5年度マ スパランス方式を用いたプラスチックに関する検討会」を開催しました。

#### 開催日程

- ・令和5年12月20日 令和5年度マスバランス方式を用いたプラスチックに関する検討会(第1回)
- ・令和6年1月23日 令和5年度マスバランス方式を用いたプラスチックに関する検討会(第2回)
- ・令和6年2月28日 令和5年度マスバランス方式を用いたプラスチックに関する検討会(第3回)
- ・令和6年3月13日 令和5年度マスバランス方式を用いたプラスチックに関する検討会(第4回)
- 検討会の概要

### A Position paper on bio-attributed plastics by MB approach (June 2023)

### Approach

■ Introduction of bio-attributed plastics is effective to increase the market value of plastics made from bio-naphtha and contribute to the promotion of biomass substitution for fossil-based plastics, as well as to the reduction of environmental impact caused by plastics in a global perspective.

### **Targeting**

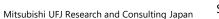
■ Consideration should be given to **including bio-attribute** plastics in the 2030 milestone of 2 million tons of biobased plastic products in the Resource Circulation Strategy for Plastics.



■ The use of bio-attributed plastics is a **transitional mechanism** to stimulate the innovation toward 2050. It may be necessary to review the mass balance approach in bio-attributed plastics when the actual biobased contents in bio-attributed plastics reach a certain level.

### **Challenges**

- Reliability
- Environmental impact (GHG reduction)
- Awareness
- Monitoring
- Consideration of sustainability criteria



# Basic approach to the use of MB approach (September 2024)

#### プラスチック資源循環におけるマスバランス方式の活用に関する基本的な考え方

令和6年9月 環境省

バイオプラスチックや再生プラスチックの利用をマスバランス方式を用いて行う場合には、実際の利用と 比べて環境価値が一見して分かりにくい等の特性があるため、以下の3要素を満たすことが必要。

#### ① 環境効果の把握

マスバランス方式を採用する前提として、そもそもバイオプラスチックや再生プラスチックを利用することによる 環境負荷低減の効果 (環境価値) を、LCA等の専門家とも相談しながら適切に把握すること。

### ② 環境価値の適正な管理

サプライチェーン上の環境価値のインプット・アウトプットを、必要に応じてサードパーティによる評価・認証も活用しながら、**適正に管理**すること。

### ③ 適切な表示・コミュニケーション

①環境効果の把握及び②環境価値の適正な管理を基に、ユーザーや消費者が環境価値を正しく理解するため、必要に応じてサードパーティとも相談しながら、製品特性に応じた**適切な表示・コミュニケーション**を行うこと。

Source: MOE website (https://www.env.go.jp/content/000265511.pdf)

# Basic approach to the use of MB approach (September 2024)

### Basic approach to the use of the MB approach in plastic resource circulation

September 2024, MOE

Since the environmental benefits of the MB approach are not publicly known, the following 3 requirements must be considered and well explained when using bio-attributed or circular-attributed plastics.

### ① Investigation of environmental impact

Before adoption of MB approach, the environmental impacts of the introduction of bio-attributed or circular-attributed plastics must be properly investigated in consultation with LCA or other experts.



### **②** Appropriate management of environmental impact

The input and output of materials in the supply chain of plastics must be properly managed with third-party certification as required.



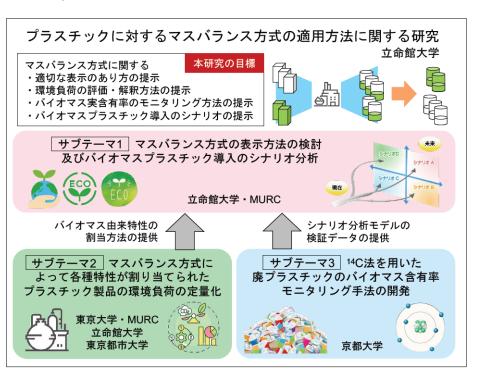
### ③ Appropriate labeling and communication

To promote correct consumer or user understanding of the environmental impact of the MB approach, appropriate labeling and communication must be provided, in consultation with third-party certification providers, as needed, based on ① and ② above.

Source: MOE website (https://www.env.go.jp/content/000265511.pdf), unofficial translation

# Research on application of MB approach in plastics

Research on application of MB approach in plastics was adopted in March 2024 by the Environment Research and Technology Development Fund (ERTDF) under MOE.



Research on application of MB approach in plastics (2024-26FY)

Representative: Ritsumeikan Univ.

#### Research on

#### Goal of research

- Appropriate labeling and explanation for MB approach
- Evaluation of environmental impact of MB approach
- Monitoring methodology of actual biobased contents in waste plastics
- Future scenario for the introduction of biobased or bio attributed plastics

#### Group1 (Ritsumeikan Univ., MURC)

- Appropriate labeling and explanation for MB approach
- Future scenario of introduction of biobased or bio attributed plastics

### 1



# Group2 (Tokyo, Ritsumeikan, Tokyo City Univ., MURC)

 Evaluation of environmental impact of plastic products by MB approach

#### **Group3 (Kyoto Univ.)**

 Monitoring methodology of actual biobased contents in waste plastics by<sup>14</sup>C analysis

Source: ERCA website (https://www.erca.go.jp/suishinhi/index.html)

Unofficial translation

Mitsubishi UFJ Research and Consulting Japan

Mitsubishi UFJ Research and Consulting Co., Ltd. Japan

hiroyuki.ueda@murc.jp

